資料４－１

社会福祉法人一麦会における自立訓練、就労継続B型等を活用した学びの場の取組等

社会福祉法人一麦会
理事長　田中秀樹

就労継続B型ポズック
施設長　野中康寛

結い（自立訓練事業）の求められる背景

- 一般就労後5年までに離職する人が多数
- 障害があればなぜ18歳から働く必要？
- 支援学校での力を伸ばす
- 18～20才に成長する時期　学び、経験
- 育ちに課題をもち続けてきた人が多い
- 就労継続事業所に聖母の家学園（三重）見晴らし台学園（愛知）を卒業したなかまが入所
- 自立しているなかまの姿が印象に残る
- 経済的負担が大きい
- 希望する人が育ちの場を保障されるために

「結い」のめざすなかま像

- 自立訓練（生活訓練）事業は２年間という短い期間ですが、ゆっくり、ゆったり、じっくりした時空の中で“自分探し”を行い、集団の中で友だちと結びあい協力し、相手を思いやり、一緒に悩みを喜びあえるなかま。また、嫌なことは「ノー」と言えるなかま。いろいろな体験を通して、日常生活、社会生活において、“生き抜く力”をもつなかまに育ってほしいと思い事業を行っています。

結いの取り組み

①居場所・学習②集団活動③労働

①居場所、学習

自分探しする場。育ちの
課題をこえる場

学習発表

プログラム

・生活・実用計算・文化・
健康・テーマ学習・個別
学習・相談

習字、話し方、

②集団活動

なかまとの集団活動を通じて所属意識、集団意識を高める

話し合いで旅行や行事などプランを立てプレゼンをおこなう。自分の思いが伝わるように話す

余暇の過ごし方、進路のなどの話し合いをする

立山登山

イルカと遊ぶ

③労働

働く経験をする

喫茶の運営（結い喫茶）

メニューづくり、買い物、製造、
接客、経理

就労継続A,B型での実習

厳しい労働現場での体験

働く、自立の意識が高められる

働く現場をみる

一般企業などの見学

就労相談

就業・生活支援センターでの相談

結い喫茶

梅の収穫・ジュース加工

ポズック（Po-ZKK）

就労継続支援B型事業所

- 「もっと、もっと障害がある仲間たちの表現に光をあて、それを仕事にしたい」という願いが重なり生まれたPo-zkk（ポズック）
- 余暇としての芸術・創作ではなく、「描く」を仕事、「つくる」を仕事に、「踊る」を仕事にし表現を仕事にします。
- 「はたらく」と「いきる」を共に創りだす場所を目指します。

- 私たちは、適応を求められ「やらされる仕事」の中で不適応を起こし作業所に通うことが出来なくなる仲間
- 素晴らしい感性や感覚をもったまま、自身が主人公になる出番が無く埋もれてしまっている仲間
- 私たちは、ゆったりとした時間の流れの中で仲間たちの才能を開花させるそんな場所が必要

Po-zkk の取り組み

①アート雑貨制作　②ポズック雑貨店　③軽作業　④ポズック楽団

①　アート・雑貨制作

～ポズックの雑貨たちすべてにストーリーがある～

仲間たちが描き表現した原画や作品を、職員がデザインし商品化を行っています。

ただし、すべてを商品化するのではなく「ポスック的にあかん物はあかん」ことをはっきりさせ商品クオリティを上げています。

Po-zkk の取り組み

①アート雑貨制作　②ポズック雑貨店　③軽作業　④ポズック楽団

②　ポスック雑貨店

「これ私が作ったの！！」

～イッテンモノを販売～

ポズック1階の倉庫を改装し、ポズク雑貨店を営業。店番、接客を行いポズックで製作した雑貨を中心にキラッと光る地元のアーティストの作品販売している。自分の商品が売れればそれが給料になる。

Po-zkk の取り組み

①アート雑貨制作　②ポズック雑貨店　③軽作業　④ポズック楽団

③ 軽作業（しんぶんバッタ（新聞紙バック制作）

＆ 新規商品 開発

　絵画・工作等のアート以外にポズックに関わる手仕事を選択して行うことも出来る。蠟引き紙の作り方を開発しポズックで使う封筒や商品をいれる商品パックを制作

　また、仲間たちの特性を活かし、常に何か新しい商品が出来ないか思案し試作をしている。

Po-zkk の取り組み

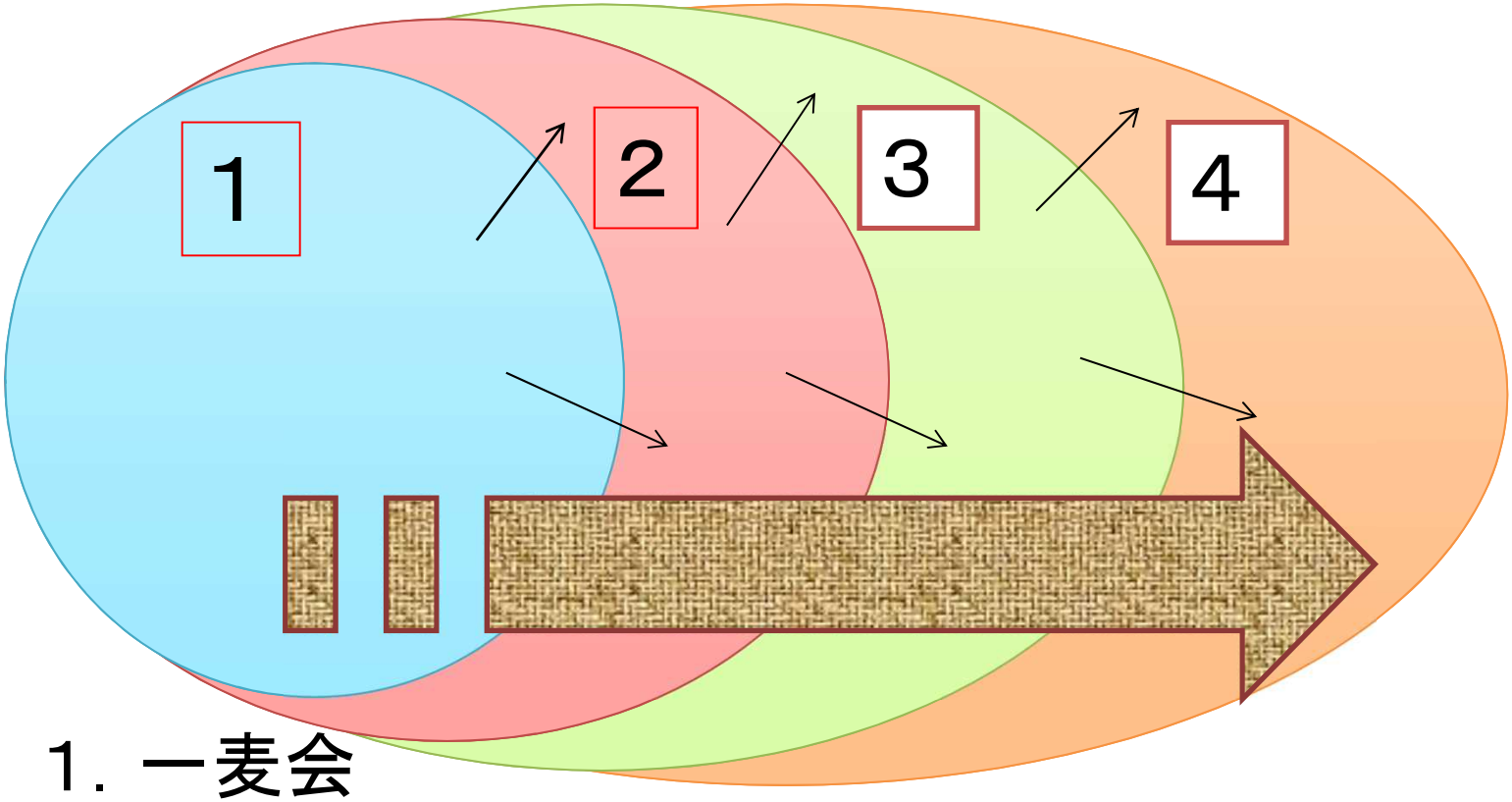
① アート雑貨制作　②ポズック雑貨店　③軽作業　④ポズック楽団

④ ポズック楽団

廃材で楽器をつくり音楽が流れると踊り出す「へんてこ おちゃめな ちんどん パフォーマー集団」何が飛び出すか、どこまでがアドリブで仕込みなのか、見る人すべてに幸福をもたらすことを目標に日々練習と公演活動を行っています。キメるところはキメるをモットーに寸劇からお祭りの盛り上げや商店街を盛り上げる練り歩きのお仕事を頂き活動しています。

ちんどん太鼓＆口上のまみさん、三線のりょうさん、サックスとくちゃん、踊り子のかなちゃんとまなみちゃん、看板役者ヒロくん、湯たんぽウオッシュボードのタッキー、巨大デンデン太鼓たくちゃん、渋く笛を吹くたかさん、ギター･太鼓･ヘンテコ楽器何でもこいのサポートメンバーのれいこちゃん

法人・地域・協同して



1. 一麦会
2. 関連団体
3. 地域での協同
4. 企業・行政

②関連団体

一麦会以外の人との出会い

一麦会職員・関係者が地域で支援活動

- 当事者活動

  精神障害者、知的障害者、ひきこもり青年

- 青年学級　すばらしき仲間たち
- 共助のまちづくり協会（一般社団法人）

  アートサポートセンターRAKU

  りんく（朗読サークル）

・麦の郷みんなでおどり隊

・スペシャルオリンピックス和歌山

- 障害者映像文化研究所（一般社団法人）

③地域で協同して
社会とのつながりの中で

障害児者つながりを広める文化祭

（実行委員会、支援学校、障害者団体、共同作業所など30団体）

- わされん運動会

（和歌山県共同作業所連絡会　南北2か所　1000人の参加者）

- ふれあい登山（障害者登山）

（和歌山山岳連盟・障害者団体で実行委員会　1981年～）

- 雪のつどい（障害者スキー）

（特別支援学校教職員を中心に実行委員会　120～150人の参加）

障害者の生涯学習を広めるための課題提案

一麦会からの提案

どのように場を広げるか？
障害者支援事業所・支援学校
障害者団体、企業、NPOなど

実践交流・研究活動
全国の実践交流
実践研究・広報
主催
委託

独自
活動
地域での連携・協同

持ち込み企画
スタッフ・送迎

スタッフ
養成講座

持続可能にするために
当事者活動
サークルの育成

公的な場所
公民館・市民センター
図書館、博物館、美術館
プールなどの体育施設

独自で企画・運営
民間委託；事業者に企画義務条件

委託・認
定資格

育成・支援

**障害者の生涯学習
推進機関**

文部科学省・教育委員会

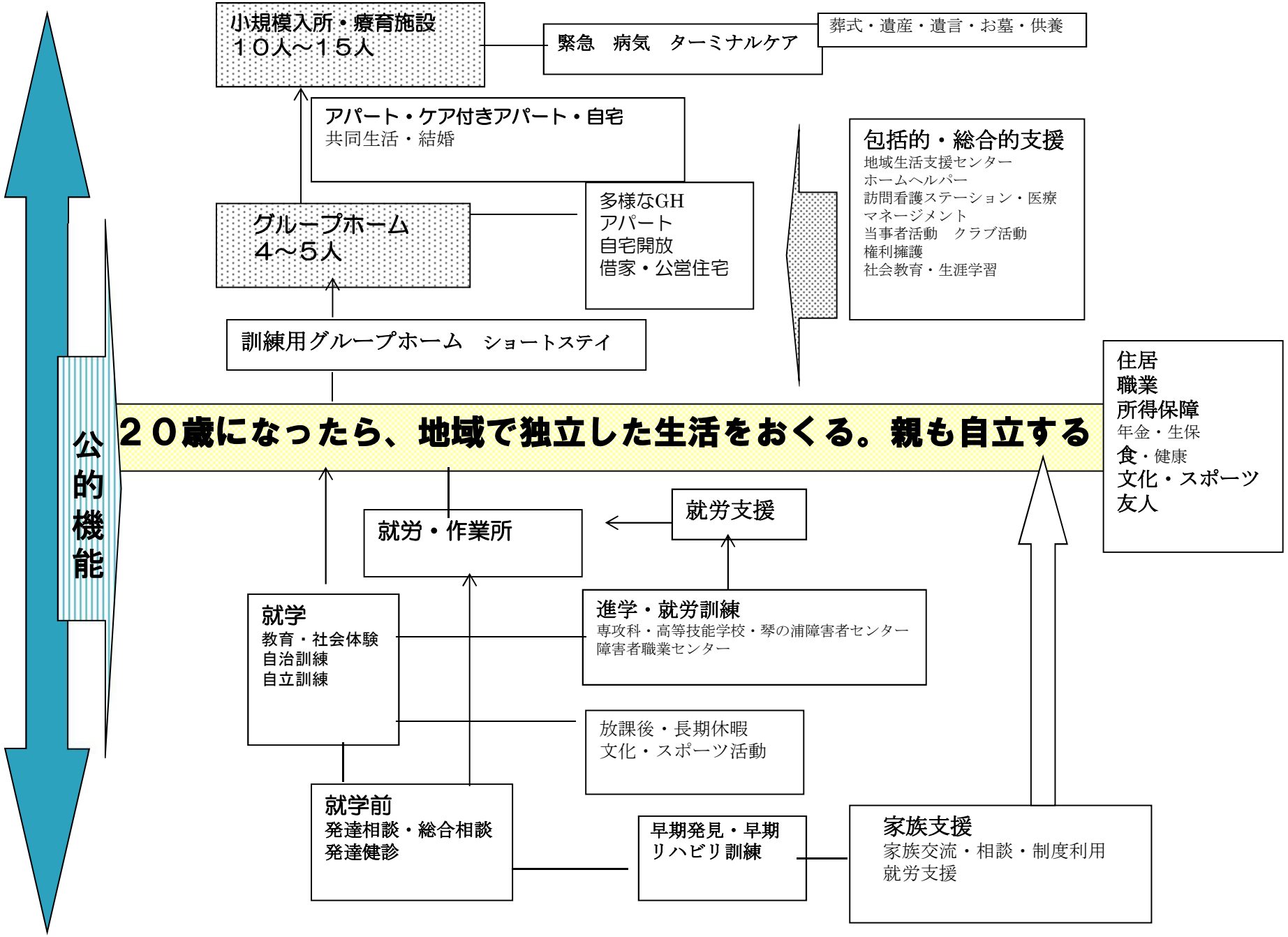
人材育成
社会教育主事（障害者生涯学習担当）
教員養成制度、大学教育、

参考

麦の郷
社会福祉法人一麦会

麦の郷の基本姿勢

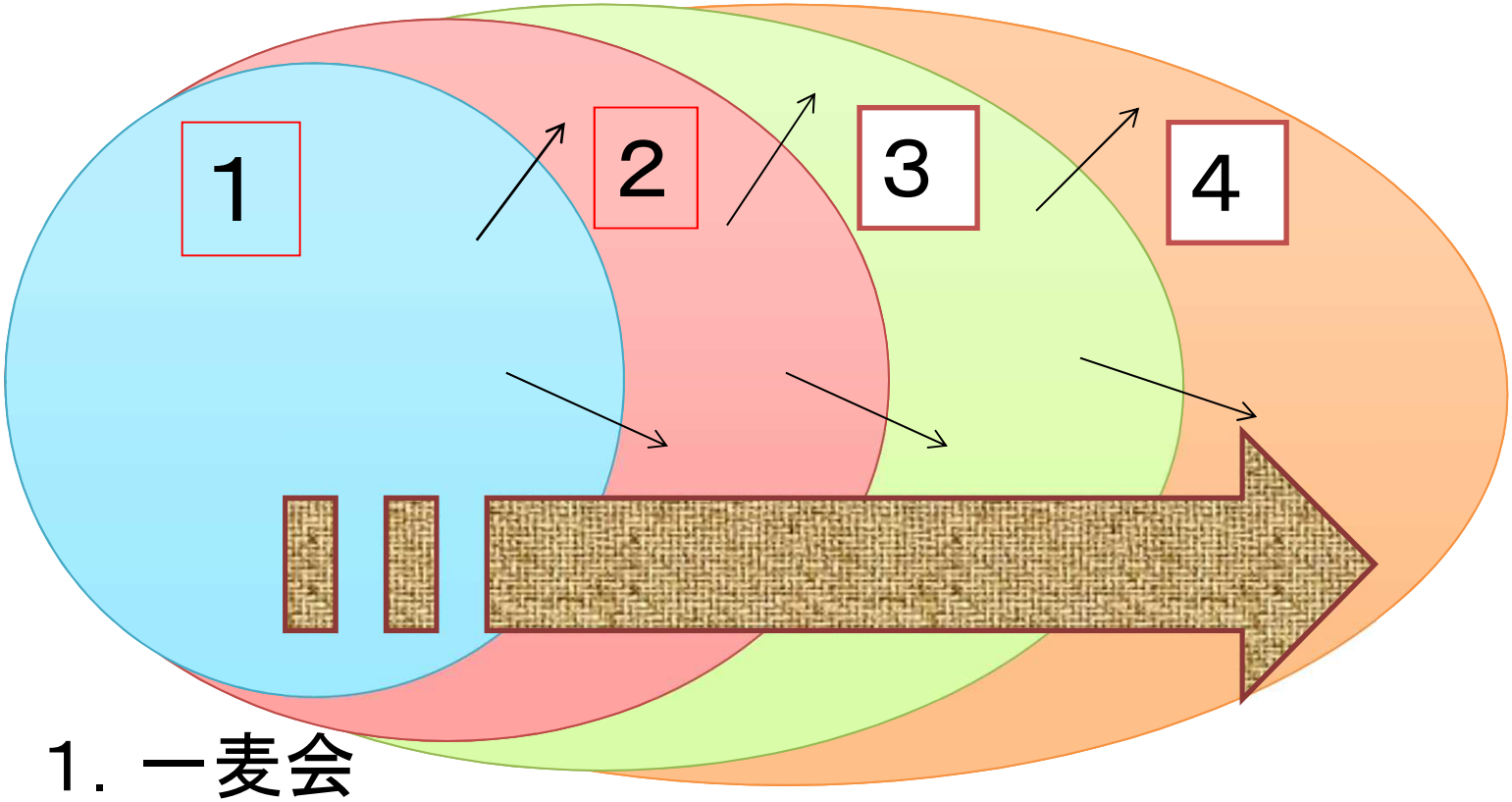
- **20歳（成人）になれば、地域で独立した生活をおくる。親も自立する･**
- 障害をもっていても成人すれば一人の社会人として地域で独立した生活をおくることができるようする。そのためにはどのような「支援」「仕組み」が必要なのかを考えていく。
- 公的な支援、不足する資源をつくりだしていく。
- 麦の郷は、家族を受け皿にしない。親も自分の人生を大切にし生きる。社会へ貢献をする。
- 単独ではできない。多くの人（公的機関、民間団体）と手をつなぎ地域で支える力を高めていく。
- 「半分の障害者が半分の障害者を支える」障害をもつ人が自分たちの問題解決にあたる。


小規模入所・療育施設
１０人～１５人
緊急　病気　ターミナルケア
葬式・遺産・遺言・お墓・供養
アパート・ケア付きアパート・自宅
共同生活・結婚
グループホーム
４～５人
多様なGH
アパート
自宅開放
借家・公営住宅
包括的・総合的支援
地域生活支援センター
ホームヘルパー
訪問看護ステーション・医療
マネージメント
当事者活動　クラブ活動
権利擁護
社会教育・生涯学習
訓練用グループホーム　ショートステイ
公的機能
２０歳になったら、地域で独立した生活をおくる。親も自立する
住居
職業
所得保障
年金・生保
食・健康
文化・スポーツ
友人
就労・作業所
就労支援
就学
教育・社会体験
自治訓練
自立訓練
進学・就労訓練
専攻科・高等技能学校・琴の浦障害者センター
障害者職業センター
放課後・長期休暇
文化・スポーツ活動
就学前
発達相談・総合相談
発達健診
早期発見・早期
リハビリ訓練
家族支援
家族交流・相談・制度利用
就労支援

幼児期から切れ目のない支援

- 悩む若い夫婦
- 生活困窮、ネグレクト、基本的生活習慣、経験不足
- 家族支援（保護者会、父親の会・育ち場）
- 生活を豊かにする支援を行う、親子で楽しむ
- 働くだけではなく、生活を豊かにすごす
- 自分たちの問題は自分たちが解決する
- 人生の最後も誇りをもって

法人・地域・協同して



1. 一麦会
2. 関連団体
3. 地域での協同
4. 企業・行政

①一麦会（法人）でできること

- 結い（自立訓練事業）
  障害があればなぜ18歳から働く？
  18～20才に成長する時期　学び、経験

- ポズック（就労支援B型）
- ハートフルハウス創（ひきこもり者支援センター　県単独事業）
- 地域交流（夏祭り、さくらまつり）

結い（自立訓練事業）

学習発表

結い喫茶・就労体験

習字、話し方、

梅の収穫・加工

立山・登山

カヌー教室

雪遊び・スキー教室

イルカと遊ぶ

創、ポズック

- まちづくり
- 映画撮影（ふるさとをください）機会に
- 古民家の再生
- NPO紀州粉河まちづくり塾、粉河底力つなげ隊、ここ塾（粉河高校、和歌山大学）
- ひきこもり青年支援
- 障害者アート

ハートフルハウス
創

ポズック

創・カフェ

ポズック・楽団

地域夏祭り（麦の郷）

地元地域住民との交流。さくらまつり、夏祭りと年２回、社会福祉協議会との共催
小学校、中学校生徒に案内され、子どもたちの参加も多い。
市長はじめ行政関係者の参加も多い。

②関連団体

- 当事者活動

  精神障害者、知的障害者、ひきこもり青年

- 青年学級　すばらしき仲間たち
- 共助のまちづくり協会（一般社団法人）

  アートサポートセンターRAKU

  りんく（朗読サークル）

・麦の郷みんなでおどり隊

・スペシャルオリンピックス和歌山

- 障害者映像文化研究所（一般社団法人）

半分の障害者が半分の障害者を支える

当事者活動 「私たちは一人ぼっちではない」

精神障害者‥和歌山市精神障害者回復者サークル

- **和歌山県精神障害者団体連合会**
- **ピアカウンセリング、学習会、交流会など　精神障害者人権110番**

知的障害者‥青年学級「すばらしき仲間たち」120人をこえる登録者

- **定例交流会　踊りのサークル活動　県内3ヶ所**

家族会県連の事務局

形態障害（あざ）のある人
定時制高校

青年学級すばらしき仲間たち

40周年を迎えた、特殊学級卒業生9人の仲間と担任教師の呼びかけではじまる
共同作業所、一般企業、在宅者などが月1回集まり、自主運営をする
友人と映画、日帰り旅行、飲み会などに出かける。いろいろな行事にも参加。

アートサポートセンターRAKU

陶芸ワークショップ

展覧会

誰もがアートを楽しむことで、自分自身のあたらしい可能性を発見することをめざす

りんく（朗読サークル）

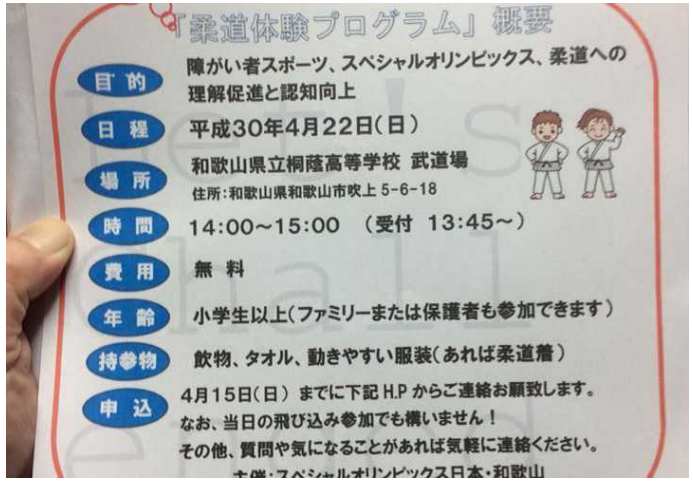
元アナウンサーのもとに障害者、ボランティアで構成
発表会を開催。ゲストとしての朗読も行っている。
声による表現活動

麦の郷みんなでおどり隊

麦の郷の仲間、一般就労者や他の事業所で働く人たちで構成
総勢40人をこえる。家族も応援に参加。
支援は支援学校教員、麦の郷スタッフ。
紀州よさこい祭り、各種行事で発表。

スペシャルオリンピックス和歌山

- 2005年冬季世界大会・長野を成功させるために前年に和歌山でトーチランを成功させる
- 麦の郷に事務局を置く



「柔道体験プログラム」概要

目的	障がい者スポーツ、スペシャルオリンピックス、柔道への理解促進と認知向上
日程	平成30年4月22日(日)
場所	和歌山県立桐蔭高等学校 武道場 住所:和歌山県和歌山市吹上 5-6-18
時間	14:00~15:00 (受付 13:45~)
費用	無料
年齢	小学生以上(ファミリーまたは保護者も参加できます)
持参物	飲物、タオル、動きやすい服装(あれば柔道着)
申込	4月15日(日)までに下記 H.P からご連絡お願致します。 なお、当日の飛び込み参加でも構いません! その他、質問や気になることがあれば気軽に連絡ください。

主催:スペシャルオリンピックス日本・和歌山

映像文化研究所（一般社団法人）

- 麦の郷を舞台にした映画「ふるさとをください」の上映を機会に設立
- 日本で公開される映画（邦画、洋画）1000本のうち300余りが障害者問題を扱う
- つながり映画祭（東京・和歌山）開催　障害者週間で上映会

③地域で協同して

障害児者つながりを広める文化祭

（実行委員会、支援学校、障害者団体、共同作業所など30団体）

- わされん運動会

（和歌山県共同作業所連絡会　南北2か所　1000人の参加者）

- ふれあい登山（障害者登山）

（和歌山山岳連盟・障害者団体で実行委員会　1981年～）

- 雪のつどい（障害者スキー）

（特別支援学校教職員を中心に実行委員会　120～150人の参加）

障害児・者つながりを広める文化祭

今年41回、3月に開催、2000人の参加。和歌山市・御坊市で開催
30団体の実行委員会構成、支援学校が持ち回りで事務局。
行政、団体、マスコミなどが協賛。

わされん運動
（共同作業所連絡会72会員）

紀北・紀南の2か所で開催
2か所で1000人の参加、作業所仲間、職員

雪のつどい（障害者スキー）

- １９７６年から
- 特別支援学校の教職員が中心に実行委員会
- 盲学校、ろう学校、養護学校の生徒、教職員の子どもの参加
- 全盲の生徒、身体障害の生徒、聴覚障害児

30周年の報告集

ふれあいハイク（障害者登山）

- １９８１年国際障害者年を機会に障害者団体と勤労者山岳連名との協同企画として出発
- 車いすの人、視覚障害者、障害者施設の仲間
- 山岳会、市民のボランティアで支援
- 近隣の山を中心に約２００人が参加する

④企業支援で協同企画

- ハッピー・アート・デイ

11月25～26日和歌山市

美園商店街各会場

（クラウドファンディング）

・アートサポートセンターRAKU、奈良たんぽぽの会、近畿労金との協同で「障害者アート祭典」エイブルアート～ひと・アート・まち

アートサポートセンター　RAKU　概要について

運営：一般社団法人　共助のまちづくり協会
理事長　島久美子
連携団体：社会福祉法人一麦会
☎　０７３－４２７－３３１６

障害のある人たちの文化活動の拠点「アートサポートセンターＲＡＫＵ」
場所：和歌山市美園町５－５－３麦の郷総合支援センター１階
開所時間：月～金　９：００～１７：００（不定期で、土日もオープン）
開設年月日：２０１２年９月
スペースの家賃、水光熱費などの必用経費は、社会福祉法人一麦会が地域貢献活動の一環として負担しています。運営は、すべてボランティアで担っています。場所がＪＲ和歌山駅から徒歩３分の商店街にあり、誰でも気軽に来れるというメリットを活かして、下記のような活動をすすめています。

＜活動趣旨＞
① 誰もが、文化表現活動を楽しむことで「ゆたかな時間＆新しい自分の可能性を発見」することをめざし、社会参加の拡充と生活の質を向上させる権利保障をすすめます。
② 障害のある人たちの文化活動による魅力的な芸術作品を地域に発信し、専門家とともにスキルアップにつながる取り組みをすすめます。
③ 地域の諸団体と連携してすぐれた障害者アート商品の創造、普及
④ 趣旨に共感する人やグループ、専門家の連携ネットワーク構築をめざします。
＜みそのＲＡＫＵにおける活動内容＞
◎　文化表現活動のワークショップ（約１時間３０分）を企画開催
毎週１回実施（1 事業所）毎月１回実施（４事業所）
分野：書道・手織り・絵画・造形・その他
講師：地域活動に取り組む方が、ボランティアで参加
2012 年　ワークショップ開催　　３０回　２７０名参加
2013 年　ワークショップ開催　　７５回　６００名参加
2014 年　ワークショップ開催　　８７回　７００名参加
2015 年　ワークショップ開催　　８５回　６８０名参加
2016 年　ワークショップ開催　１２０回　９６０名参加
＜５年間の実績　ワークショップ開催　３９７回／３２１０名＞
参加者の障害種別：知的・精神・発達障害

◎ 定期的な活動

① アートたいむ：毎月最終の日曜日に開催（１３：３０～１５：３０）
絵を描くことが好きな人たちが集まり、自由に描いています。
参加者・・・１０名前後　年令１０歳代～６０歳代
参加者の障害種別：知的・精神・発達障害

② 朗読サークルりんく：月１回土曜日午後に開催（１５：００～１７：００）
２０１２年和歌山市補助金事業により実施した表現活動ワークショップの成果として、継続活動につながりました。
定期的に集まり、主に絵本の読み聞かせ等「声」の表現活動に取り組む。
年１回の発表会を企画するほか､地域のつながりで発表の機会を得ています。
参加者の障害種別：知的・精神

◎ 障害のある人たちの作品展・・・・日常的に取り組む文化活動の発表機会としてＲＡＫＵのギャラリー機能を活用しています。

2012 年
共同企画の作品展 3 回（盲ろう者作業所／障害児学童／ひきこもり青年作業所）
2013 年
共同企画の作品展２回（アート工房作業所／障害児学童）
公募作品展１回
2014 年
共同企画の作品展 2 回（アート工房作業所／地域生活支援センター）
公募作品展１回
2015 年
共同企画の作品展 2 回（アート工房作業所／地域生活支援センター）
公募作品展１回
2016 年
共同企画の作品展 2 回（アート工房作業所／地域生活支援センター）
＜５年間の実績　作品展開催　１３回　参加者　４５００名＞
なお、２０１６年は他の社会福祉法人が企画する障害者アートの「アールブリュット作品展」や地域の取り組み「ひと・あーと・まち和歌山」に協力し展示作品を提供した。

◎ 福祉とアートとデザインの勉強会
地域の諸団体や障害者アートに関心のある市民、専門家が情報交流や学習、共同での商品開発をすすめている。毎月１回開催。

麦の郷　ハートフルハウス創

（若者と共に地域を創る主体となる協同を目指して）

社会福祉法人一麦会（麦の郷）

ひきこもり者社会参加支援センター
麦の郷ハートフルハウス 創
センター長
森橋 美穂（MIHO MORIHASHI）

人が集まり
つながり合う
地域の拠点
となるように。

築100年の古民家をコミュニティーの拠点とし、

地域の人やさまざまな団体と共に活用している。

ひきこもり者社会参加支援センター（県事業）

「ハートフルハウス創」
創
―HaJiMe―

HeArt JoIn MovE

Heart Join Move 「心を繋げて動きだす」

ハートフルハウス創 歴史

1996年4月「 第 1 期 不登校支援　」

麦の郷ハートフルハウス　開始 無認可

麦の郷 岩出生活支援センター（岩出市）

（精神障害者地域生活支援センター事業に付設

2005年　日本財団の助成金により新築移転（紀の川市）

2006年　障害者自立支援法により精神障害者地域生活援センター事業 廃止

新たに市町村相談支援事業、地域活動支援センターとして

麦の郷 「紀の川 岩出生活支援センター」開設し同居

2009年７月「 第 2 期 ひきこもり支援」

和歌山県事業 ひきこもり者社会参加支援センター

麦の郷 ハートフルハウス創ーHaJiMeーとして再出発

2012年秋　「 第 3 期 働く場創設 」

粉河のまちづくりに関わることで山﨑邸と出会う

2013年7月　創カフェオープン

2014年5月　福祉空間施設整備事業 山﨑邸改修完了

「創カフェ本格始動」

2015年4月 『ハートフルハウス創』の中心拠点を粉河に！！

関係機関との連携

- 県精神保健福祉センター
- 県障害福祉課
- 保健所
- 市障害福祉課
- 創hajime
- 地域生活支援センター
- ひきこもりショートケア
- 障害福祉サービス
- 精神科病院
- 家族会
- 就労支援
- 教育相談員
- サポステ
- ひきこもり支援団体（県・全国組織）
- 学校（小・中・高・大・通信・定時制）
- 地域団体（まちづくり・NPO）

ここでは「社会的ひきこもり」と言われる若者たちが集い、様々な活動をしている場所。

　様々な要因が複合的に絡み合い、何らかの生きづらさを抱え、社会で生きていくことや対人関係の不安や焦りが強くなり、社会参加が困難な状態。

二次障害的に精神症状が現れるなど、精神医療のケアを必要とする人も多くいる。

【社会不安障害・パニック障害・強迫性障害・うつ病・統合失調症など】

また【軽度の知的障害・学習障害・広汎性発達障害など】もともと持っている生きづらさがあるが、周囲に認識や理解がされず、それが大きなストレスとなり、さらに生きづらくなっている人も多い。

『ハートフルハウス創』

４つの柱を中心とした活動

①安心できる居場所

②集団自治活動

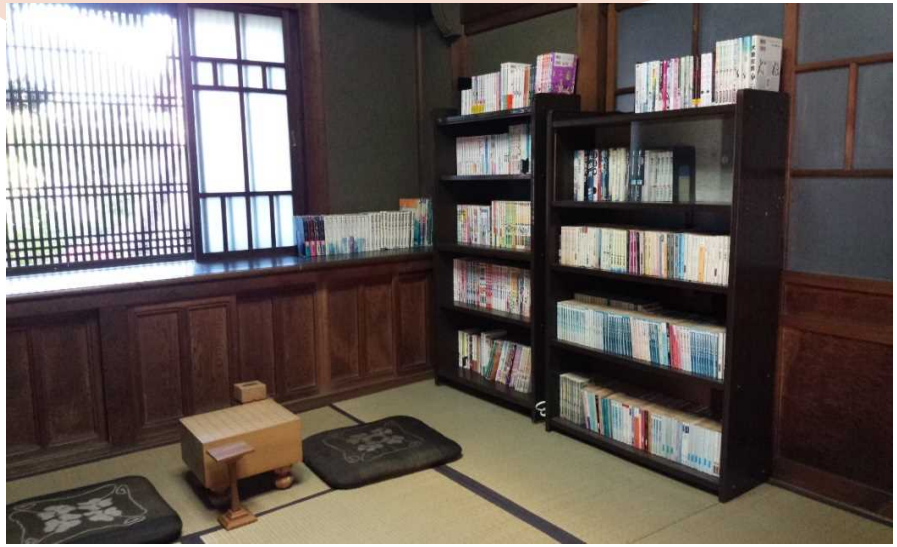
③労働

④地域と共に

①安心できる居場所

紀の川生活支援センター内
ログハウス（紀の川市尾崎）

古民家山崎邸　（紀の川市粉河）



相談・訪問／居場所利用／自治活動／軽作業／カフェで働く
使い方・過ごし方は人それぞれ・・・

レクや旅行
交流の場

餃子づくり

川遊び・ビリヤード

様々な体験・経験の場

サイクリング

一泊旅行

語りの場

講演会にて登壇

交流会・ワークショップ

語り合いから生まれる共有

語りとの３つの出会い

「語りたい」という自分 → 充電期間が必要

自分自身との向き合い＝自己肯定。安心感の再構築。

「語りたい」と思える人 → 信頼関係が必要

否定されず他者に受け止めてもらえる＝信頼関係。

「語りたい」と思う集団 → 場所機会が必要

自分自身の思考と他者の思考が相互に行き交う。

違いや共通点を知り、共に理解や共感を深めていく。

生きづらさを語る

●今までよくわからずにモヤモヤした自分の気持ちに蓋をして抱えてきたが、小学校・中学校の頃に味わった疎外感やしんどさ等を話せた。（Sさん20代）

●これまで競争社会で勝つための価値観を植え付けられてきたが、創でいろんなしんどさを抱えている人、いろんな生活をしている人と出会い、価値観が変わった。

自分がひきこもっていたことも恥じてきたが、自分の弱さやしんどさもあからさまに出していいんだと思えた時、とても身体が軽く楽になり、ひきこもりであった自分も認められ。

（Kさん30代）

＝同じ境遇や共感できる仲間がいる＝安心感がある。

②　集団自治活動

お互いに認め合い語り合いながら、集団を創り出す。
主体的な活動の中で役割を持ち、自分の生活を充実させていくことにつながる。➡自己実現と充実感

「ひとり一事業（プロジェクト長）を！」
メンバーが主体となり様々なプロジェクトを立ち上げ。

自分の考えた企画などをやらせてもらったり、いろいろな経験ができている。これまでは人から否定されたり、怒られることがすごく怖かった。創ではそんな威圧感がなく、失敗しても怒られないという安心感がある。創でやりたいことを企画して活動していることで、ただ「生きる」だけの生活から「活きる」を実感している。
学生の時に味わえなかったクラブやサークル活動のようなことが、でき今が青春！！（Kさん30代）

自治活動

「やりたいなぁ！」から
生まれた
主体的な取り組み

和歌山ボードゲーム遊戯会

山﨑邸文庫イベント

演劇部

③　労働

“本物”の仕事にこだわる。
収入を得ることで、先の見通しが持て生活の欲求が生まれてくる。➡自立に向けて

★職業訓練や就労体験では得られないもの。
➡「任される役割」「責任感」「認められ感」
➡実体験の中での応用力・調整力
➡仕事に対する対価(現金収入)

見せかけではない仕事の経験値や自信を貯めることができる。

＝仕事を通じて自己肯定を育むことが大切。

働く主体者（主人公）に！！

「創カフェ は 中間就労の場」

私たちが考える中間就労とは、雇い雇われる
関係ではなく協働で働く場（協働労働の場）です。

→ 共に働く中で協働者になり、
生まれる（対等）フラットな関係。

仕事に合わせるのではなく、その人の状態や
特性に合わせたゆるやかな働き方が必要。

カフェで働く

仕事を通して人とつながる

「働く」から「生活を創る」「夢を語る」
～メンバーたちの声～

■居場所だけの時はスタッフと利用者だった。けどカフェでコーヒーを任せられ、共に働くことで関係性が同じになった。

■人が怖かったが、カフェでお客さんと触れることで、それほど怖いものではないと感じるようになった。

■自分独りの生活だと自分の事しか考えなかったが、相手と協力することや、お客さんの立場になって物事を考えるようになった。

■給料で欲しいものが買えるようになった。母にプレゼントできた。甥っ子にお年玉を上げることができた。旅行に行くためにお金を貯めたい。

④ 地域と共に

地域の一員として（生活者として）

メンバーが「創の〇〇さん」と名前で呼ばれる活動

➡社会参画へ

競争と孤立化が深まる社会において現代社会が取りまく様々な問題から将来が見通せない・不安を感じる時代に生きている。

「ひきこもり」という一部の特異な問題や若者固有の個別的な問題でもない。社会環境や条件など、私たちの生活に関わる大きな社会問題としてとらえていくことが大切。

「誰もが安心して暮らせる地域に」　「支え支えられる共助のまちに」

地域交流

年末もちつき大会

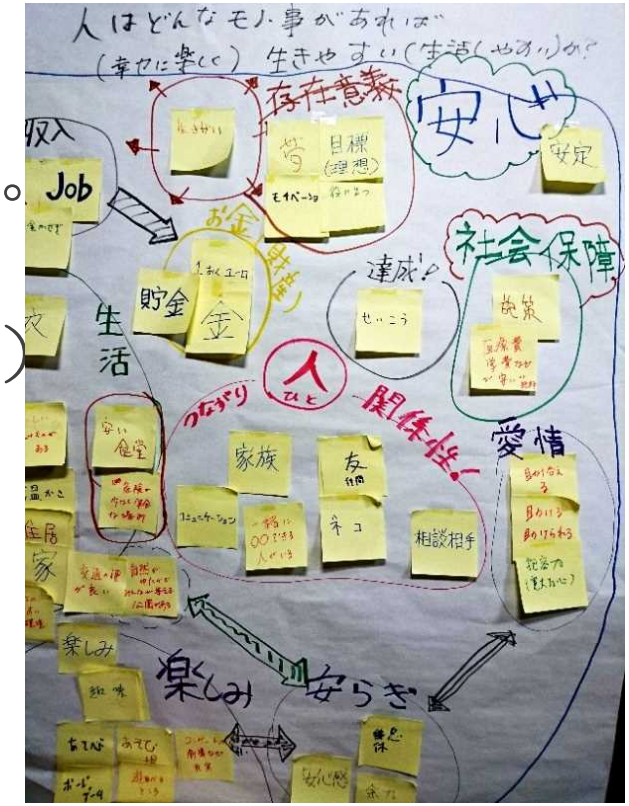
地域のことを知り、考える場

流しそうめん大会

新しい生き方・暮らしを！！

固執している一般的な
生活・就労イメージからの脱却。

★「既存のモノ」「普通」に適応（あわす）のではなく、地域社会の中で、様々な人と関わり、多様な生き方や価値観があることを知り、
自分らしい生き方を模索していく。



＜私たちの想い＞

私たちは、適応を求められ「やらされる仕事」の中で不適応を起こし作業所に通うことが出来なくなる仲間たちや素晴らしい感性や感覚をもったまま、自身が主人公になる出番が無く埋もれてしまっている仲間もたちと出会ってきました。そして、私たちは、ゆったりとした時間の流れの中で仲間たちの才能を開花させるそんな場所が必要ではないかという想いが芽生え、

「もっと、もっと障害がある仲間たちの表現に光をあて、それを仕事にしたい」という願いが重なり生まれた Po-zkk（ポズック）は、余暇としての芸術・創作ではなく、「描く」をに仕事、「つくる」を仕事に、「踊る」を仕事にし表現を仕事にします。そして「はたらく」と「いきる」を共に創りだす場所を目指します。

ふたつの出会い

～「きのまる」～

今から数年前、私が相談支援事業所の所長をしていた頃、女性職員のひとりがカレンダーの裏にひと筆で描かれた「きのまる」と書かれたネコのような動物らしきものを見せてくれた。「この絵かわいいでしょう、これが何かの仕事に繋がらないかなぁって机にしまっておいているんです」確かに、何とも言えない愛くるしい動物のような絵だった。この「きのまる」の作者は、どの機関につなげてもうまくいかない支援員や相談支援専門員からすれば「問題のもつ人」でした。うまく自分を表現できず、表現方法の歪みがあるため、結果的に周囲を困らせてしまうという存在でした。彼のこころの内は、自分の想いや要求をいっぱい伝えたい、こんなに生きたいと沢山のニーズを持ってはいるが、それが常に満たされないモヤモヤを感じて息苦しい生活していたように思います。

～ポングリ奥野～

「障害福祉に関わることがしたい」と優しいゴリラのようなガタイの大きい若者（奥野亮平）と運動神経抜群と思われるパートナー（奥野麻美）に出会ったのは 2013 年の秋でした。

彼はポングリ奥野という名前で、絵画や廃材を使ったアート作品をはじめ、店舗等の空間デザインをおこなうアーティスト活動をおこない生計をたてていました。枠にはまらない彼らの生き方の中で様々なユニークな人たちとの交流や出会いがあり、その中ででも「障害者」と呼ばれる存在に「障害者って何が障害だろう」と違和感を感じていたのと同時に、障害をもつ人々の独特の感性や可能性を感じていたのだと思います。

まだ見ぬ作業所をイメージしていたのが「アートをメインにした作業所」みんなと関わって過ごしているうちに思い描いていたものと少し違ってきました。いろんな想いを持った人たちが絵や創作、踊り、ちんどん、時には軽作業や料理を通じて少しづつ居心地のいい場所を作っていく過程を見ていると「アート」とは単なる手段のひとつなんだと実感しています。目に見えない心の居場所づくりもそうですが、実際、今お店を作っているというところ。そこに創作活動と内職を織り交ぜた作品や商品が並ぶと思うと楽しみでありません。また、そこに店に立つ人やサポートをする人がうまれさらに支え合い補い合いの世界が待っている。アートの作業所と呼ぶのはもうちっぽけであり、ひとつの村や家族を作っている様な気持ちです。

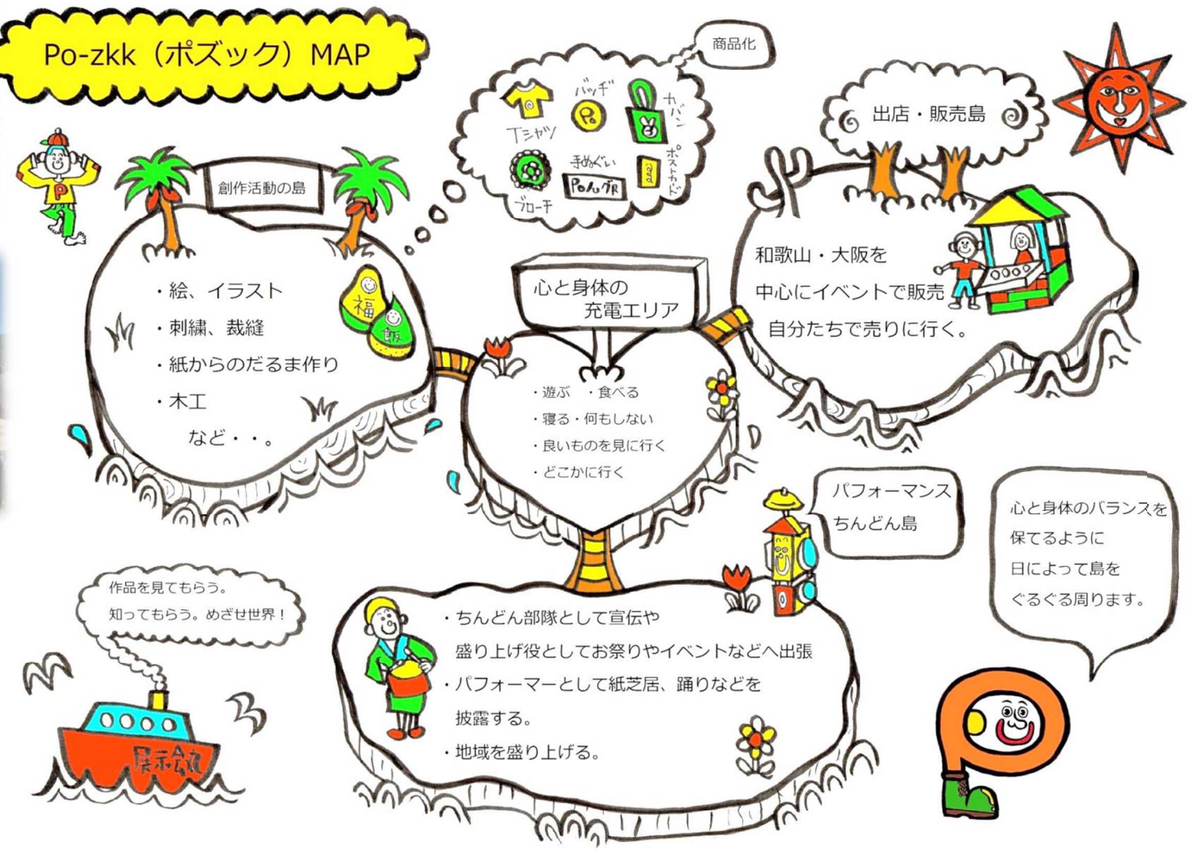
（奥野亮平 Po-zkk 通信４号より）

「きのまる」 × 「ポングリ奥野」 ＝ ポングリ図画耕作所 開所（2014 年６月）

（一麦会 就労継続支援Ｂ型事業所 むぎピースの出張所としてメンバー11 人でスタート）

翌年 2015 年 11 月 就労継続支援Ｂ事業所 むぎピースから独立 **就労継続支援Ｂ型事業所 Po-zkk として再出発**

（Po-zkk（ポズック）の名前の由来は、スワヒリ語でポレポレ（ゆっくり・のんびり）と、zkk「ズック」は布製の靴というオランダ語（正式には doek）から引用され、ズックには、その人のペースにあった歩みといった願いがこめられています）



～ポズックの活動～

＜アート・雑貨制作＞

仲間たちが描き表現した原画や作品を、職員がデザインし商品化を行う。ポズックらしい様々な雑貨を制作しています。ただし、すべてを商品化するのではなく「ポスック的にあかん物はあかん」ことをはっきりさせ商品クオリティを上げている。

雑貨のひとつひとつのは、その商品の内なるストーリーがあり、そのストーリーを伝える「ポズック雑貨展」を今年６月に開催予定。

＜しんぶんバッタ（新聞紙バック）チーム＞

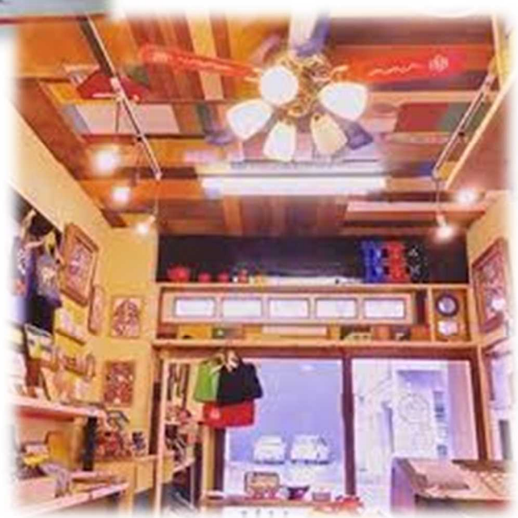
絵画・工作等のアート以外にポズックに関わる手仕事を選択して行うことも出来る。蠟引き紙の作り方を開発しポズックで使う封筒や商品をいれる商品パックを制作

＜ポズック雑貨店（月～金 不定休）＞

ポズック１階の倉庫を改装し、ポズック雑貨店を営業。店番、接客を行いポズックで製作した雑貨を中心にキラッと光る地元のアーティストの作品も販売している。

～２０１７年度　出店～

４月９日(日)　ポポロハスマーケット／５月１日(月)　メーデー／５月３日(水)　憲法バースデー／５月１４日(日)　「アースデー」／５月２７日(土)　つくしスペシャルコンサート／６月１３～１８日　ポングリ×Ｐｏ-ｚｋｋ合同展／８月１９日（土）　夏祭り（夕方）／１０月１９日（木）　就労支援セミナー／11 月 25 日（土）紀の川支援学校文化祭／１月２０日（土）　平成２９年度ふれあいフェスティバル　／２月１８日(日)　ふれあい文化祭／　３月１１日（日）ポポロハスマーケット　　計１２回



＜ポズック楽団＞

廃材で楽器をつくり音楽が流れると踊り出す「へんてこ おちゃめな パフォーマー集団 われらポズック楽団～」何が飛び出すか、どこまでがアドリブで仕込みなのか、見る人すべてに幸福をもたらすことを目標に日々公演活動を行っています。

楽団のメンバーは、ちんどん太鼓＆口上のまみさん、三線のりょうさん、サックスとくちゃんが奏でる音楽に鳴りものをもって登場する踊り子のかなちゃんとまなみちゃん、様々なキャラクターに変身するパフォーマーで看板役者ヒロくん、湯たんぽウオッシュボードのタッキー、巨大デンデン太鼓たくちゃん、渋く笛を吹くたかさん、ギター･太鼓･ヘンテコ楽器何でもこいのサポートメンバーのれいこちゃん

キメるところはキメるをモットーに舞台公演での寸劇からお祭りの盛り上げや商店街を盛り上げる練り歩きのお仕事を頂き活動しています。

～２０１７年度 公演～

４月２日(日)　海南お菓子祭り／４月８日（土）　麦の郷さくらまつり／４月９日(日)　ポポロハスマーケット／４月２９日(土)「どっぷり昭和町」／４月２９日(土)　「どっぷり昭和町」／５月３日(水)　憲法バースデー／５月５日(金)　上岩出神社／５月１４日(日)　「アースデー」／５月２１日(日)　和歌山県母親大会／５月２８日（日）　河内長野町内バザー／６月３日（土）　高齢協総会／６月１８日（日）　ポングリ×Ｐｏ-ｚｋｋ合同展／６月２３日（金）　摂津支援学校授業／６月２５日（日）　コスモス親の会総会／６月３０日(金)　作業所説明会／７月２２日（土）　障害者・市民の夏祭り／８月１日（火）　ちくとしあきライブ／８月３日（木）　西和佐夏祭り／９月１６日（土）　イベント／１０月１日(日)　赤い羽根共同募金 70 周年感謝の集い in 和歌山／１０月８日(日)　「亀山トリエンナーレ」／１０月２０日(金)～２２日（日）／第 17 回全国障害者芸術・文化祭なら／10 月２９日(日)　はつが野祭り／１１月４日（土）　みてアート／１１月１１日（土）　ミーツ・ザ・福祉／11 月 25 日か 26 日　ハッピーアートデー／１２月１日(金)　近畿弁護士会総会／１２月３日(日)　クリスマス会／１２月９日(土)　岩出父母の会／１月２０日（土）　児童デイ「ことは」(白浜）／２月７日(水)　東牟婁老人クラブ指導者研修会／２月１８日(日)　ふれあい文化祭／２月２５日（日）エンカレッジ広場ハルオープニングイベント／２月２５日（日）　和歌山 NPO セレモニー／３月　３日（土）粉河とんまか雛通り／３月１１日（日）ポポロハスマーケット／３月２２日（木）チンドンショー天福町公民館　　計３７公演

Ｐｏ－Ｚｋｋ　憲 章

（毎年の方針を「Ｐｏ－Ｚｋｋ憲章」として定めてゆくことにしました）

＜前文（2015 年開設時 施行）＞

Po-zkk は、余暇としての芸術・創作ではなく、「描く」を仕事に、「つくる」を仕事に、「踊る」を仕事に、それは、まさに表現を仕事にする Total Work of Art Group である。そして「はたらく」と「いきる」を共に創りだす場所を目指す。

＜第１条（2016 年度方針 施行）＞

Po-zkk は、自分のことを認め・認められ、そして、補い合って、本来それぞれがもつ秘めた力の解き放ちを行う。

第１項　私たちが出来ることは、環境（場）を整えること。

第２項　環境（場）の特性は、心のバランスをとれる場所。

第３項　大切にすることは、物を整える。ものを大切にすること。

＜第２条（2017 年度方針）＞

Po-zkk は、ありきたりの価値観など「常識が正しいということに」あてはめるのではなく、それぞれのモノサシにあった働き方を知り、発見し、活動を深めて行く。

第１項　それぞれのモノサシを大切にしながら仕事や役割を深めてゆく

第２項　モノサシとは、それぞれの感覚である。

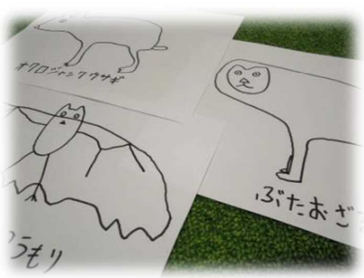
第３項　感覚とは、五感、価値観、楽しい感、時間の長短感、体温感、暑寒感、辛い感、苦しい感、嫌感、そして、ピン！と感（六感）

＜第３条（2018 年度方針）＞

Po-Zkk は、間違っていることは、間違っているとキチンと個々に落とし込み、そして社会に訴える。

第１項　それぞれの関係（仲間の職員も）の中で不協和音が発生したとき、議論し反省のもと全力で関わることを大切にする。

第２項　したい事、やらなければいけない事、やってもらい事、それぞれのバランスを大切にし、ひとりひとりに丁寧にその人に合った関わりを保つバランスを見極める。



今後できればいいなぁと思うこと（具体的方針・構想、まだ妄想）

＜余裕があれば・・・地域貢献活動＞

こども or 高齢者食堂・じじばば代行買い物・一緒に地域清掃

＜お店的な　テーマ：自分がこの地域に住んでいると楽しくなるような店＞

ポズックの雑貨。Po-ｚkk セレクトショップ。海外の雑貨。麦商品（ラベル変更）

キビ団子屋（銀行の前は結構ひとが通る）　限定でパン、野菜などを売る。

＜パフォーマンス部＞

ちんどんフェス・大舞台での発表・保育園や学校で紙芝居やちんどん・みんなの作品展（創のメンバーも）

ひとりひとりに注目して目で見て耳で聴いて楽しい、寸劇も取り入れた「ちんどん楽団」海外公演

店舗付紙芝居

＜仕事＞

衣料品づくり（着物ズボンかばん）・粉河だるま・太鼓づくり・染め・廃材楽器・竹籠・個展（年２回）

ネット販売・畑をして野菜で給食・山崎邸のイベント等の宣伝・廃材風力発電・カタログ

＜取り組み＞

のんびりゆったり DAY・何もしない一日・創・ポズック一緒に旅行・常識にとらわれない活動

概要

設置法人：社会福祉法人 一麦会

事 業 名：就労継続支援 B 型事業

名　　称：Po-zkk（ポズック）

住　　所：紀の川市粉河 1758

面積構造：234.93 ㎡（71 坪）／鉄骨造鋼板葺 3 階建て

定　　員：２０名

施 設 長：野中康寛

サービス管理責任者：閑林泉

スタッフ：奥野亮平　／　奥野麻美　／　日高あきこ